

科目ナンバリング		G-LAS10 80002 LB31							
授業科目名 <英訳>	東アジアジュニアワークショップ East Asia Junior Workshop			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 教授 安里 和晃				
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	日本語及び英語	
旧群		単位数	3単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月4		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
(文学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
<p>「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、国立台湾大学、ソウル国立大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は18年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する(今年度はソウル)。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしがって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。</p> <p>国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。</p>									
【到達目標】									
<p>(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。</p> <p>(2)国立台湾大学、ソウル国立大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。</p> <p>(3)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1回～第6回 3大学の教員によるスカイプ授業</p> <p>第7回～第15回 各自の関心にしがってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。</p> <p>8月お盆明けの5日間 ワークショップとフィールドワーク</p>									
【履修要件】									
英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。									
【成績評価の方法・観点】									
授業へのコミットメント、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加、英語でのプレゼンテーションにより評価する。詳細は授業で説明する。									
【教科書】									
使用しない									
----- 東アジアジュニアワークショップ(2)へ続く -----									

東アジアジュニアワークショップ(2)

[参考書等]

(参考書)

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修(予習・復習)等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしたがって発表資料を作成する。

[その他(オフィスアワー等)]

詳細は最初の授業で説明する。

[主要授業科目(学部・学科名)]